

2023年度（2024年3月期） 第3四半期決算 説明資料

2024年2月8日
アズビル株式会社
証券コード：6845（東証プライム）



**令和6年能登半島地震によりお亡くなりになられた方々に
謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災された方々に
心よりお見舞い申し上げます。**

**azbilグループは、被災された方々への支援ならびに
社会インフラの一端を担っている企業グループとして、
被災地の復旧・復興に向けた取組みを着実に実行して
まいります。**

ポイント

1. 2023年度 第3四半期累計期間連結業績

ファクトリーオートメーション（FA）市場の市況低迷の影響等により受注は減少したが、調達・生産力強化により受注残を着実に売上へ転化し、**前年同期比で増収（+142億円、+7.5%）、営業利益は増収効果および収益力強化施策の効果で大きく増益（+72億円、+45.7%）**

2. 2023年度 連結業績計画

2023年11月7日公表の業績計画から変更無し。BA事業はオフィスビル関連需要等が堅調に推移する一方、AA事業においてはFA市場の市況低迷が続くなどセグメントにより事業環境は異なるが、2023年11月に修正・公表した業績計画通りに事業は進捗。

通期売上高2,840億円（前年度比+55億円、+2.0%）、営業利益337億円（前年度比+24億円、+7.8%）、3期連続の増収・増益を目指す

3. 株主還元

- **2023年度配当は1株当たり年間73円、9期連続の増配を計画。中間配当を期初公表通り、前年同期比4円増配の1株当たり36円50銭で実施。**安定した配当の継続を基本に、今後さらに純資産配当率（DOE）水準（2022年度4.4%）の向上を目指す
- **自己株式の取得を完了（219万株、99億円）、取得した株式全数を消却（2023年10月31日）**

目次

1. 2023年度（2024年3月期）第3四半期累計期間連結業績	・ ・ ・ P. 5
2. 2023年度（2024年3月期）連結業績計画	・ ・ ・ P.13
→直近の公表（2023年11月7日）から修正なし	
3. 株主の皆様への利益還元	・ ・ ・ P.17
→期初の公表（2023年5月12日）から修正なし	
補足資料 I — 各種データ	・ ・ ・ P.20
補足資料 II — 中期経営計画・サステナビリティ経営	・ ・ ・ P.26
注記事項	・ ・ ・ P.32

1. 2023年度（2024年3月期） 第3四半期累計期間連結業績

1. 2023年度（2024年3月期）第3四半期累計期間連結業績

経営成績

- 受注高は、FA市場の市況低迷継続によるAA事業での減少を主因に前年同期比減少
- 売上高は、前年度における受注増加を背景に、着実に部品調達・生産も進み増加
- 営業利益は、経費の増加はあるが、増収効果および価格転嫁を含めた収益力強化施策により大きく増加
- 親会社株主に帰属する四半期純利益は、営業利益増加に加え、前年同期における製品保証引当金繰入額の計上・税金費用が増加していた影響等により前年同期比で大きく増加

[単位：億円]

	2022年度 3Q累計	2023年度 3Q累計	対前年同期	
			増減	増減%
受 注 高	2,319	2,234	△84	△3.7
売 上 高	1,910	2,053	+142	+7.5
国 内	1,472	1,563	+90	+6.2
海 外	438	489	+51	+11.8
売上総利益	748	856	+108	+14.5
%	39.2	41.7	+2.6pp	
販売費及び一般管理費	588	624	+35	+6.0
営 業 利 益	159	232	+72	+45.7
%	8.3	11.3	+3.0pp	
経 常 利 益	167	245	+77	+46.6
税金等調整前四半期純利益	164	273	+109	+66.3
親会社株主に帰属する四半期純利益	105	191	+86	+81.9
%	5.5	9.3	+3.8pp	

※ 為替影響（対前年同期）
 売上高+29億円、営業利益+2億円
 現地法人の現地通貨ベースのP/Lを円に
 換算する際に使用する前期と当期の換算
 レートの差により生じた為替の影響額

1. 2023年度（2024年3月期）第3四半期累計期間連結業績

セグメント別成績

- 受注高は、AA事業がFA市場の市況低迷継続により減少、BA事業は事業環境は堅調だが、前年同期に大型案件があったことの影響で前年同期と同水準、LA事業はライフラインなど構成3分野がそれぞれ増加
- 売上高は、BA・AA・LA事業全てで増加
- セグメント利益は、増収効果と価格転嫁を含む収益力強化の取組みにより全セグメントで増加

[単位：億円]

		2022年度 3Q累計	2023年度 3Q累計	対前年同期	
				増減	増減%
■ BA事業	受注高	1,082	1,080	△2	△0.2
	売上高	833	905	+72	+8.7
	セグメント利益	59	95	+35	+59.2
	%	7.2	10.5	+3.3pp	
■ AA事業	受注高	870	770	△100	△11.5
	売上高	739	786	+47	+6.4
	セグメント利益	96	126	+30	+31.4
	%	13.1	16.1	+3.1pp	
■ LA事業	受注高	381	400	+18	+4.9
	売上高	353	376	+23	+6.6
	セグメント利益	2	10	+7	+278.3
	%	0.8	2.7	+2.0pp	

1. 2023年度（2024年3月期）第3四半期累計期間連結業績

セグメント別成績 BA事業

<事業環境認識>

- 国内において、都市再開発案件や工場向け空調の需要が高い水準で継続。省エネ・CO₂排出量削減対策を含めた建物改修に関する需要も堅調
- 新型コロナウイルス感染拡大後の安全や新しい働き方に適応した新たなソリューションへの関心が継続
- 海外においては、コロナ禍から回復後の投資が引き続き堅調

- 受注高は、複数年サービス契約の更新が少ない時期にあたり、前年同期における大型案件受注の影響や採算性重視の取組みにより新設分野が減少したが、国内外ともに事業環境は堅調であり、全体としては前年同期と同水準
- 売上高は、新設が高い水準を維持、既設・サービス・海外それぞれが伸長し、全体として増加
- セグメント利益は、労務費・外注費の他、DX関連費用やその他経費の増加等があったが、増収及び収益力強化施策の効果により大きく増加

[単位：億円]

	2022年度 3Q累計	2023年度 3Q累計	対前年同期	
			増減	増減%
受 注 高	1,082	1,080	△2	△0.2
売 上 高	833	905	+72	+8.7
セグメント利益	59	95	+35	+59.2
%	7.2	10.5	+3.3pp	

1. 2023年度（2024年3月期）第3四半期累計期間連結業績

セグメント別成績 AA事業

<事業環境認識>

- FA市場では、製造装置市場での市況低迷が継続しているが、先行発注で大きく膨らんだ在庫調整も進む。今後の市況回復時期を注視
- プロセスオートメーション（PA）市場では、中国での市況低迷が継続しているが、全体では保守・改造需要を中心に堅調に推移

- 受注高は、半導体製造装置市場での循環的な需要の落ち込み並びに前年同期における先行発注の反動もあり大きく減少
- 売上高は、足元では半導体製造装置市場等での受注減少の影響が見られるが、豊富な受注残のもと、調達・生産体制の強化、部品調達難の緩和により大きく増加
- セグメント利益も、研究開発投資や、DX関連費用等の増加があるが、増収及び価格転嫁を含む収益力強化の取組みにより増加。利益水準も向上

[単位：億円]

	2022年度 3Q累計	2023年度 3Q累計	対前年同期	
			増減	増減%
受 注 高	870	770	△100	△11.5
売 上 高	739	786	+47	+6.4
セグメント利益	96	126	+30	+31.4
%	13.1	16.1	+3.1pp	

1. 2023年度（2024年3月期）第3四半期累計期間連結業績

セグメント別成績 LA事業

<事業環境認識>

- ー ガス（都市ガス/LPガス）・水道等のライフライン分野は、法定によるメーターの交換需要を主体として一定の需要が継続的に見込まれる。但し現在、LPガスメーター市場自体は循環的な不需要期にあり
- ー ライフサイエンスエンジニアリング（LSE）分野では製薬プラント設備への投資需要が継続しているが、インフレによる投資・景気への影響も見られる

- 受注高は、ライフライン、LSE、生活関連それぞれの分野で増加したことから、全体としても増加
- 売上高は、ライフライン分野での増加を主因に、その他の分野も伸長し、全体として増加
- セグメント利益は、増収及び収益力強化の取組みにより増加

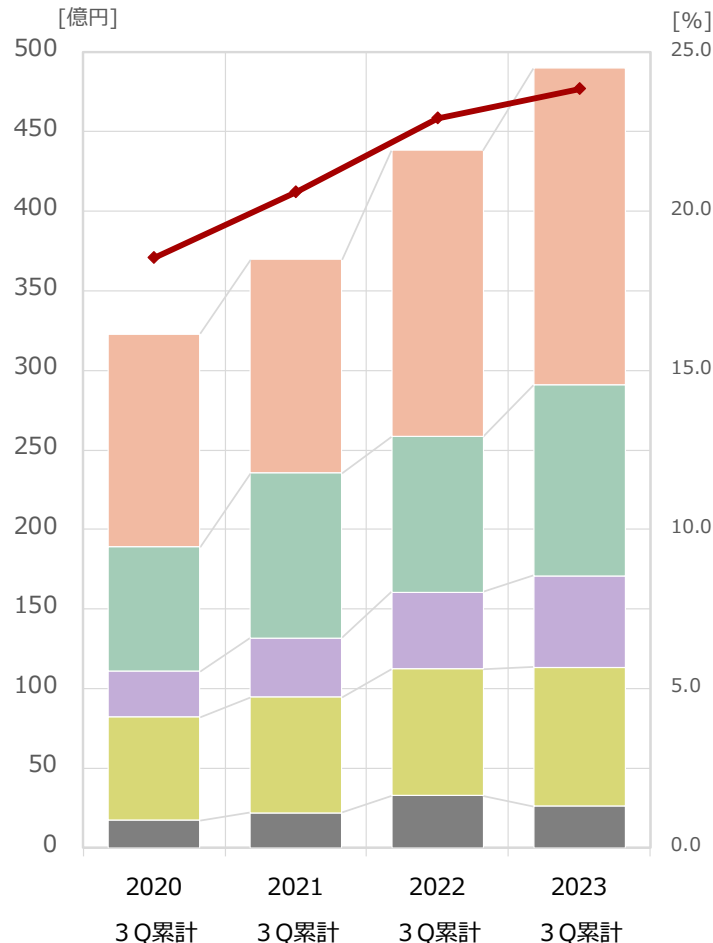
[単位：億円]

	2022年度 3Q累計	2023年度 3Q累計	対前年同期	
			増減	増減%
受 注 高	381	400	+18	+4.9
売 上 高	353	376	+23	+6.6
セグメント利益	2	10	+7	+278.3
%	0.8	2.7	+2.0pp	

1. 2023年度（2024年3月期）第3四半期累計期間連結業績

海外エリア別売上高

- 前年同期比11.8%増加し、海外売上高比率は23.9%
- BA事業はアジアを主体に大きく増加、AA事業は、FA市場での市況低迷の影響により北米等で減少したが、部品調達難緩和による生産の回復等でアジア・中国が大きく伸長。LA事業はアジア・その他地域で減少したが、北米・欧州で伸長し全体として増加



[単位：億円]

年度	2020 3Q累計	2021 3Q累計	2022 3Q累計	2023 3Q累計
アジア	133	133	179	199
中国	78	103	97	119
北米	28	37	48	57
欧州	65	72	79	87
その他	17	21	32	26
連結	322	369	438	489

(ご参考)

海外売上高比率 (%)		18.5	20.6	22.9	23.9
期中 平均 レート	USD	107.57	108.58	128.30	138.24
	EUR	120.94	129.86	136.05	149.76
	CNY	15.37	16.79	19.38	19.62

※ 海外売上高は、現地法人と直接輸出の売上のみを集計しており、間接輸出は含んでおりません
 ※ 現地法人の事業年度は主に12月31日を期末日とする年度を採用しております

1. 2023年度（2024年3月期）第3四半期累計期間連結業績

財政状態

- 部品／部材確保・調達力強化の対応等による棚卸資産の増加の他、保有株式の時価上昇等により投資有価証券が増加した一方、売上債権と現金及び預金が減少し、流動資産が減少
- 仕入債務、賞与引当金、未払法人税等の流動負債が減少
- 自己株式の取得、配当金の支払いがあつたが、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等により純資産が増加

[単位：億円]

	2022年度末 (A)	2023年度 3Q末 (B)	対前年度末 増減 (B)-(A)
流動資産	2,197	2,076	△120
現金及び預金	620	569	△50
売上債権等	970	883	△87
有価証券	167	89	△78
棚卸資産	371	478	+106
その他	67	56	△10
固定資産	771	801	+29
有形固定資産	382	407	+24
無形固定資産	61	61	+0
投資その他の資産	327	332	+4
資産合計	2,968	2,877	△91

	2022年度末 (A)	2023年度 3Q末 (B)	対前年度末 増減 (B)-(A)
負債	909	762	△147
流動負債	790	643	△147
仕入債務	247	190	△56
短期借入金	88	83	△4
その他	454	368	△86
固定負債	119	119	+0
長期借入金	36	22	△13
その他	83	97	+13
純資産	2,058	2,114	+55
株主資本	1,890	1,898	+8
資本金	105	105	-
資本剰余金	116	116	△0
利益剰余金	1,992	2,007	+15
自己株式	△323	△330	△6
その他の包括利益累計額	137	184	+46
非支配株主持分	30	32	+1
負債純資産合計	2,968	2,877	△91

自己資本比率 (%)	68.3	72.4	+4.1pp
------------	------	------	--------

2. 2023年度（2024年3月期）連結業績計画

→直近の公表（2023年11月7日）から修正なし

2. 2023年度（2024年3月期）連結業績計画 業績計画

2023年11月7日公表の業績計画から変更無し

BA事業はオフィスビル関連需要等が堅調に推移する一方、AA事業においてはFA市場の市況低迷が続くなどセグメントにより事業環境は異なるが、2023年11月に修正・公表した業績計画通りに事業は進捗。3期連続の増収・増益を目指す

- 豊富な受注残を背景に、部品調達・生産を着実にすすめることで計画通りの売上高を達成する
- 増収並びに受注時の採算性改善や価格転嫁等の収益力強化施策の効果により、経費の増加はあるが、営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益ともに過去最高益を目指す
- 成長のための研究開発、設備、DX、人的資本への投資は中期経営計画に基づき実施

	2022年度 通期 実績	2023年度			対前年度		2023年度		
		上期 実績	下期 修正計画 (2023/11/7)	通期 修正計画 (2023/11/7)	増減	増減%	通期 当初計画 (2023/5/12)	増減	増減%
売上高	2,784	1,318	1,521	2,840	+55	+2.0	2,820	+20	+0.7
営業利益	312	129	207	337	+24	+7.8	320	+17	+5.3
%	11.2	9.8	13.6	11.9	+0.6pp		11.3	+0.5pp	
経常利益	321	143	208	352	+30	+9.5	321	+31	+9.7
親会社株主に帰属する当期純利益	226	119	150	270	+43	+19.5	238	+32	+13.4
%	8.1	9.1	9.9	9.5	+1.4pp		8.4	+1.1pp	

2. 2023年度（2024年3月期）連結業績計画 セグメント別計画（1）

- **BA事業**： 堅調な事業環境を背景に、着実に施工を進めることで豊富な受注残を売上高に転化、修正計画通りの売上・利益の達成を見込む
- **AA事業**： FA市場の市況低迷継続は織り込み済みで、修正計画通りの売上高達成を見込む。増収並びに収益力強化の取組みによりセグメント利益も計画達成を見込む
- **LA事業**： ライフライン分野での需要増等により修正計画通りの増収を見込む。収益力強化の取組みによりセグメント利益も着実に改善

[単位：億円]

		2022年度 通期 実績	2023年度			対前年度	
			上期 実績	下期 修正計画 (2023/11/7)	通期 修正計画 (2023/11/7)	増減	増減%
■ BA事業	売上高	1,285	560	762	1,323	+37	+2.9
	セグメント利益	160	37	128	166	+5	+3.3
	%	12.5	6.7	16.9	12.5	+0.0pp	
■ AA事業	売上高	1,039	518	533	1,052	+12	+1.2
	セグメント利益	145	84	75	160	+14	+9.7
	%	14.0	16.4	14.1	15.2	+1.2pp	
■ LA事業	売上高	479	250	235	486	+6	+1.4
	セグメント利益	5	7	3	11	+5	+86.8
	%	1.2	3.0	1.4	2.3	+1.0pp	

[単位：億円]

2023年度	対当初計画	
通期 当初計画 (2023/5/12)	増減	増減%
1,300	+23	+1.8
156	+10	+6.4
12.0	+0.5pp	
1,060	△8	△0.8
155	+5	+3.2
14.6	+0.6pp	
480	+6	+1.3
9	+2	+22.2
1.9	+0.4pp	

セグメント別計画（2）

BA

堅調な事業環境を背景に、着実に施工を進めることで豊富な受注残を売上高に転化、修正計画通りの売上・利益の達成を見込む

- 国内外ともに事業環境は堅調、次年度以降も継続の見込み
- 豊富な受注残を基に、着実に施工を進めることで、通期で前年度比増加となる売上高を見込む
- 労務費・外注費等の高騰やDX関連費用等の増加はあるが、増収及び受注段階での採算性改善などの収益力強化施策の効果によりセグメント利益は修正計画通り前年度比増加を見込む

AA

FA市場の市況低迷継続は織り込み済みで、修正計画通りの売上高達成を見込む。増収並びに収益力強化の取組みによりセグメント利益も計画達成を見込む

- PA市場で比較的堅調な市況が継続する一方、半導体製造装置市場等のFA市場は低迷が継続
- 売上高は、市況影響によりFA市場は減収となるが、部品調達・生産を着実に進め、受注残をもとにPA市場を主体に、引き続き2年連続1,000億円を超える売上高達成を見込む
- 増収及び価格転嫁を含む収益力強化施策の効果により通期のセグメント利益率は15%超を見込む

LA

ライフライン分野での需要増等により修正計画通りの増収を見込む。収益力強化の取組みによりセグメント利益も着実に改善

- ライフライン分野は、LPガスメーターの不需要期ではあるが、都市ガス・水道メーターでの需要を着実に取り込み修正計画通りの売上高達成を見込む。LSE分野ではプロジェクト管理を実施し、受注残を着実に売上高へ転化する一方で、インフレによるコスト影響を価格に転嫁
- LA事業全体で価格転嫁や品質管理ならびにプロジェクト管理強化等の施策をすすめ、継続的な収益性改善効果を創出、セグメント利益の着実な改善を見込む

3. 株主の皆様への利益還元

→期初の公表（2023年5月12日）から修正なし

3. 株主の皆様への利益還元

基本方針に基づき、株主還元の更なる向上を計画

株主還元の充実、成長に向けた投資、健全な財務基盤という基本方針に基づき、研究開発費・設備投資やDX、人的資本への投資等、成長への投資を実施しつつ、増配、自己株式の取得・消却を実施

2023年度 配当

2023年度年間配当計画については、

1株当たり年間**73円**（前年度比+7円）

中間配当は期初公表通り、前年同期比4円増配の
1株当たり36円50銭を実施

自己株式 取得・消却

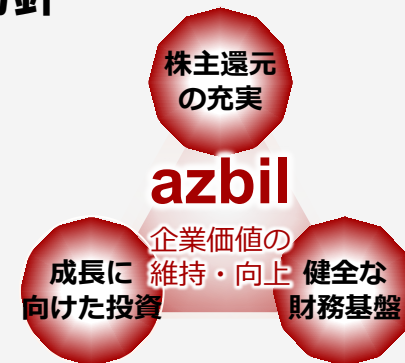
規律ある資本政策、資本効率の観点から、

99億円（219万株）の自己株式を取得済、
取得した上記株式全数を消却済

投 資

商品力強化に向けて設備、研究開発等への投資を拡大
設備投資 **111億円**、研究開発**132億円**を計画

基本方針



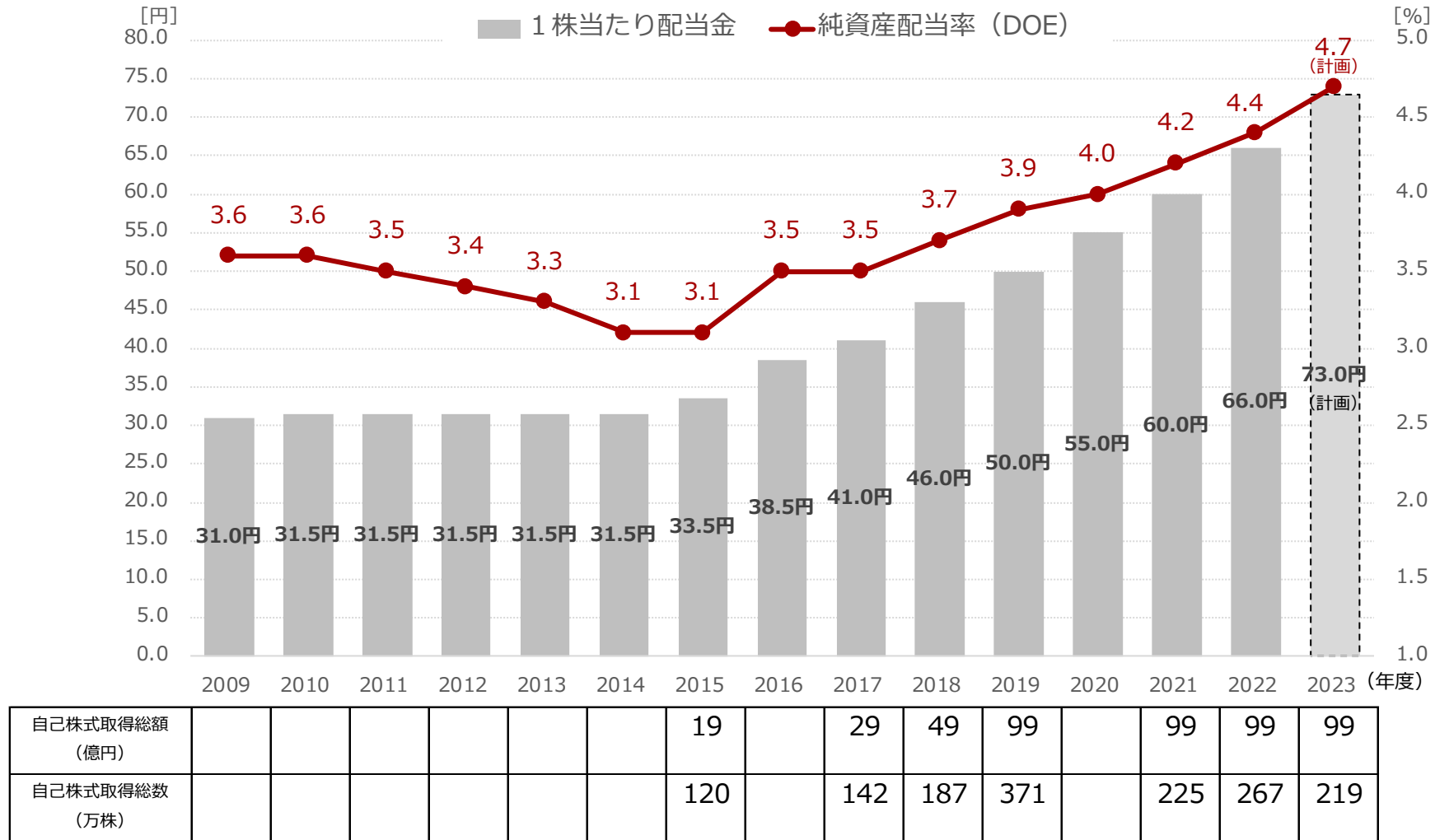
株主還元の充実、成長に向けた投資、健全な財務基盤の3つのバランスに配慮しながら、規律ある資本政策を展開し、azbilの企業価値の維持・向上を図る

- 株主の皆様への利益還元を経営の重要課題として位置付ける
- 株主還元は配当を中心に、自己株式取得も機動的に組み入れる
- 株主還元の水準については、連結業績、自己資本当期純利益率（ROE）・純資産配当率（DOE）の水準、将来の事業展開と企業体質強化のための内部留保等を総合的に勘案して決定する
- 配当についてはその水準の向上に努めつつ、安定した配当を維持する

3. 株主の皆様への利益還元

株主還元の推移

- 2023年度、9期連続の増配を計画、DOEは4.7%を見込む



* 1株当たりの配当金、並びに自己株式取得株数は、株式分割の影響を加味し遡及修正しております。

補足資料 I

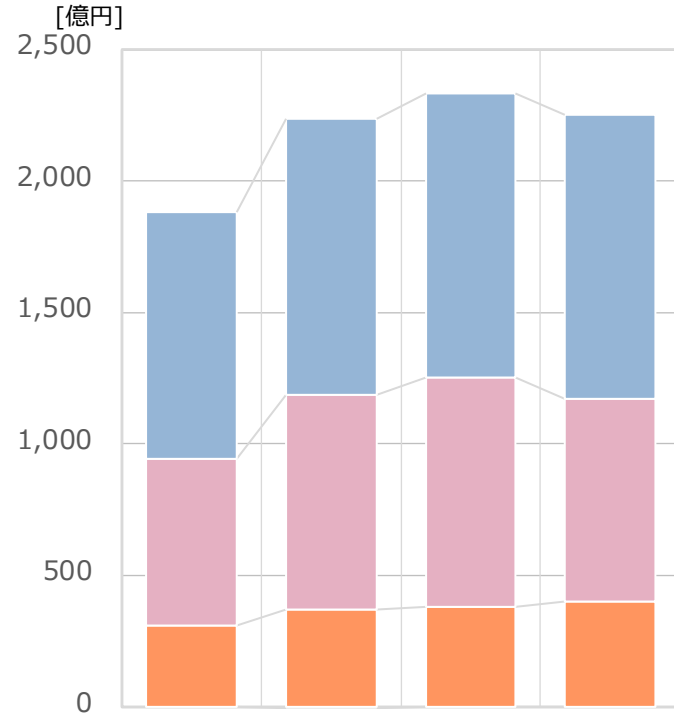
— 各種データ —

-
- ・ セグメント別業績（受注高、受注残高、売上高、セグメント利益） . . . P.21
 - ・ 設備投資・減価償却費、研究開発費 . . . P.25

補足資料 I 各種データ

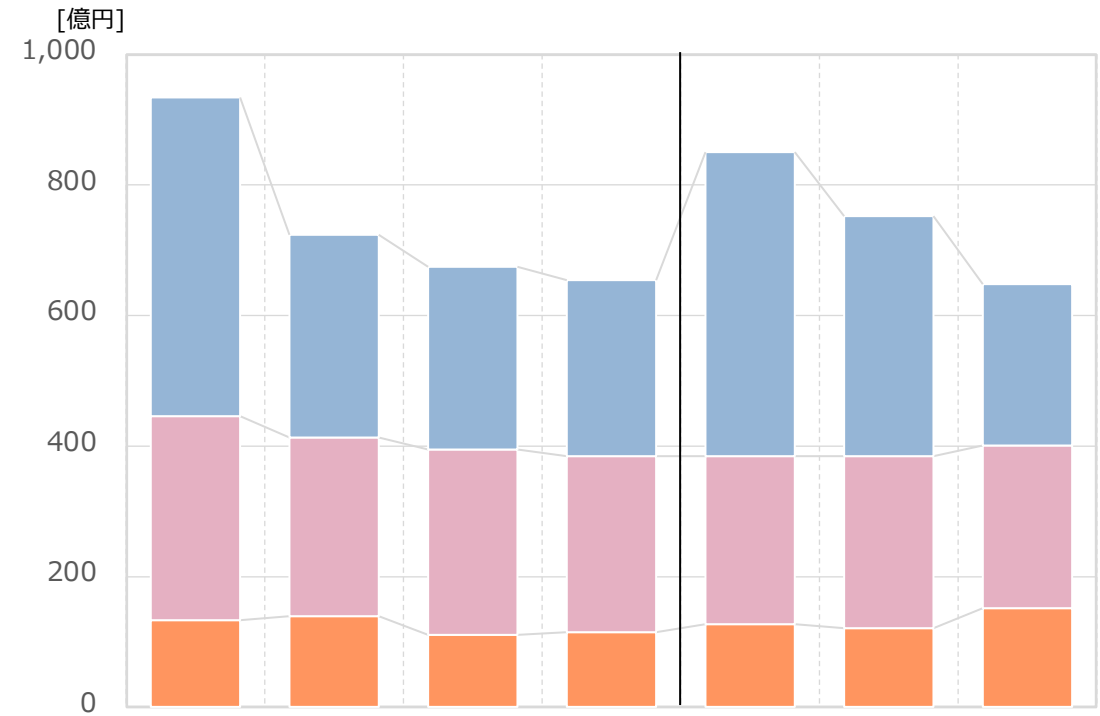
セグメント別業績推移

■ セグメント別受注高 同期比較



年 度	2020 3Q累計	2021 3Q累計	2022 3Q累計	2023 3Q累計
BA事業	942	1,048	1,082	1,080
AA事業	629	813	870	770
LA事業	311	372	381	400
連 結	1,872	2,221	2,319	2,234

■ セグメント別受注高 四半期比較

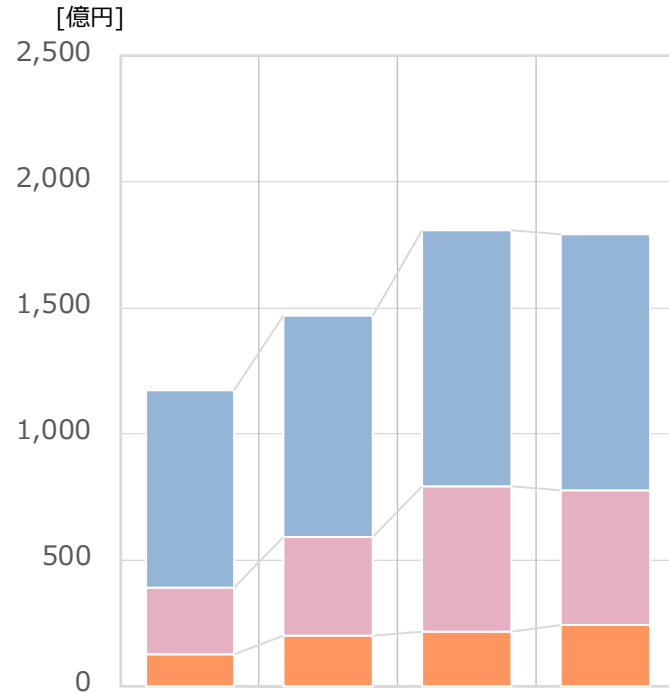


年 度	2022				2023		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
BA事業	489	312	280	270	464	367	247
AA事業	312	273	284	269	257	263	249
LA事業	131	139	110	115	127	120	151
連 結	928	720	670	649	843	747	643

補足資料Ⅰ 各種データ

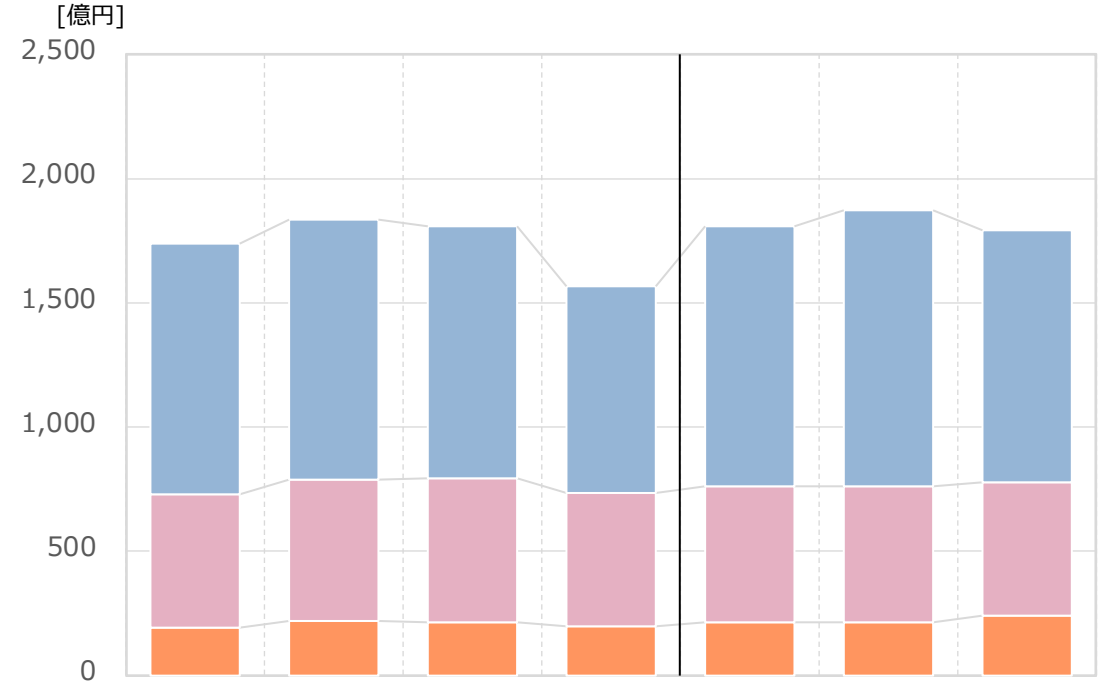
セグメント別業績推移

■ セグメント別受注残高 同期比較



年 度	2020 3 Q累計	2021 3 Q累計	2022 3 Q累計	2023 3 Q累計
■ B A事業	786	877	1,016	1,013
■ A A事業	261	394	580	532
■ L A事業	126	197	213	243
連 結	1,172	1,465	1,805	1,783

■ セグメント別受注残高 四半期比較

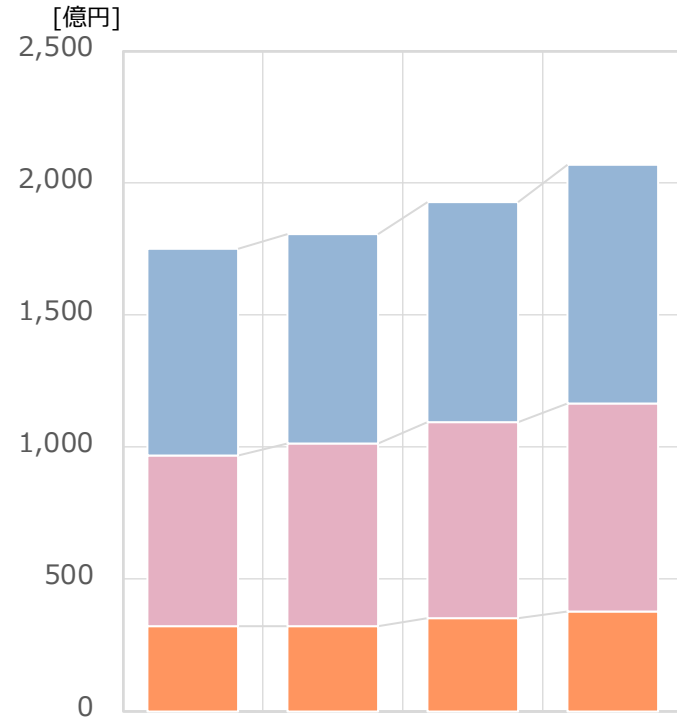


年 度	2022				2023		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
■ B A事業	1,011	1,046	1,016	828	1,045	1,107	1,013
■ A A事業	534	569	580	534	546	547	532
■ L A事業	194	220	213	201	214	215	243
連 結	1,732	1,829	1,805	1,560	1,801	1,866	1,783

補足資料 I 各種データ

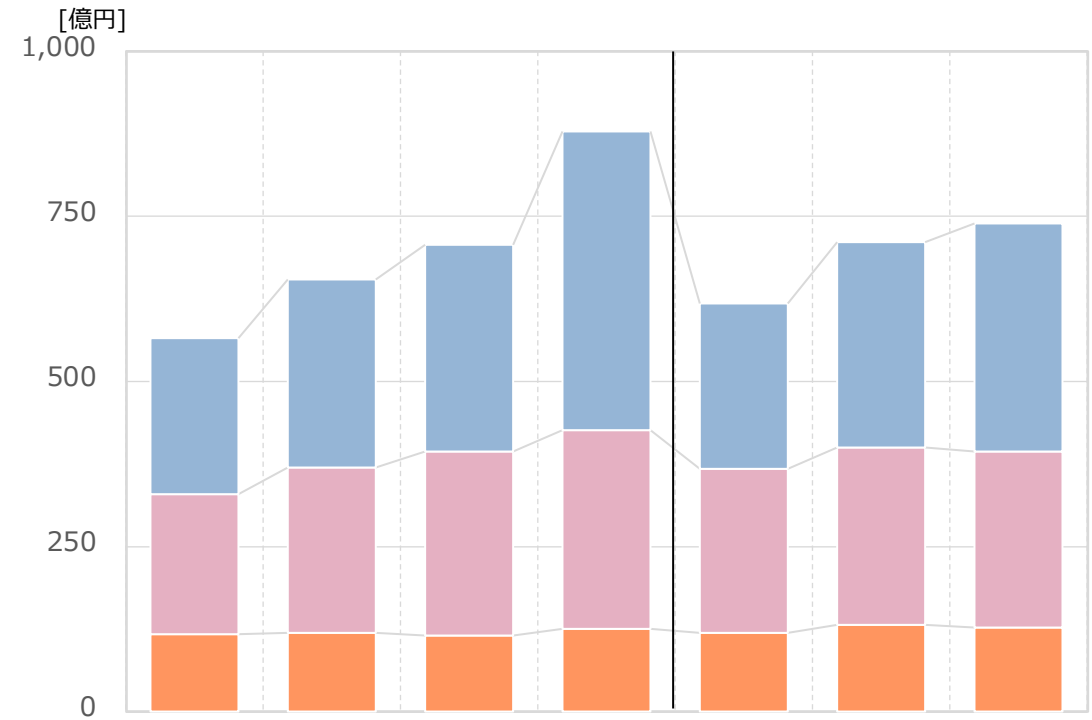
セグメント別業績推移

■ セグメント別売上高 同期比較



年 度	2020 3 Q累計	2021 3 Q累計	2022 3 Q累計	2023 3 Q累計
■ B A事業	786	791	833	905
■ A A事業	645	692	739	786
■ L A事業	320	321	353	376
連 結	1,742	1,793	1,910	2,053

■ セグメント別売上高 四半期比較

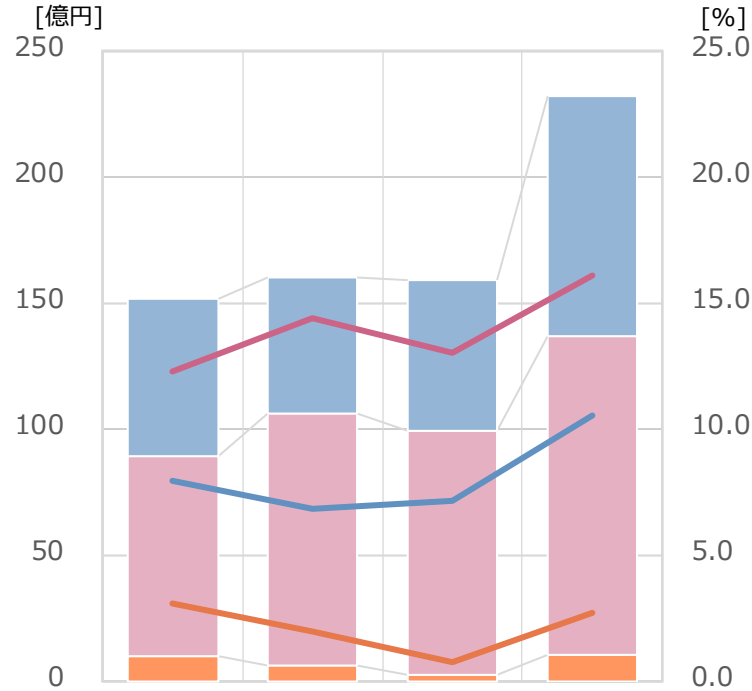


年 度	2022				2023		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
■ B A事業	235	284	313	452	249	311	345
■ A A事業	211	250	277	300	248	269	268
■ L A事業	117	119	115	125	119	130	126
連 結	560	649	700	873	612	706	734

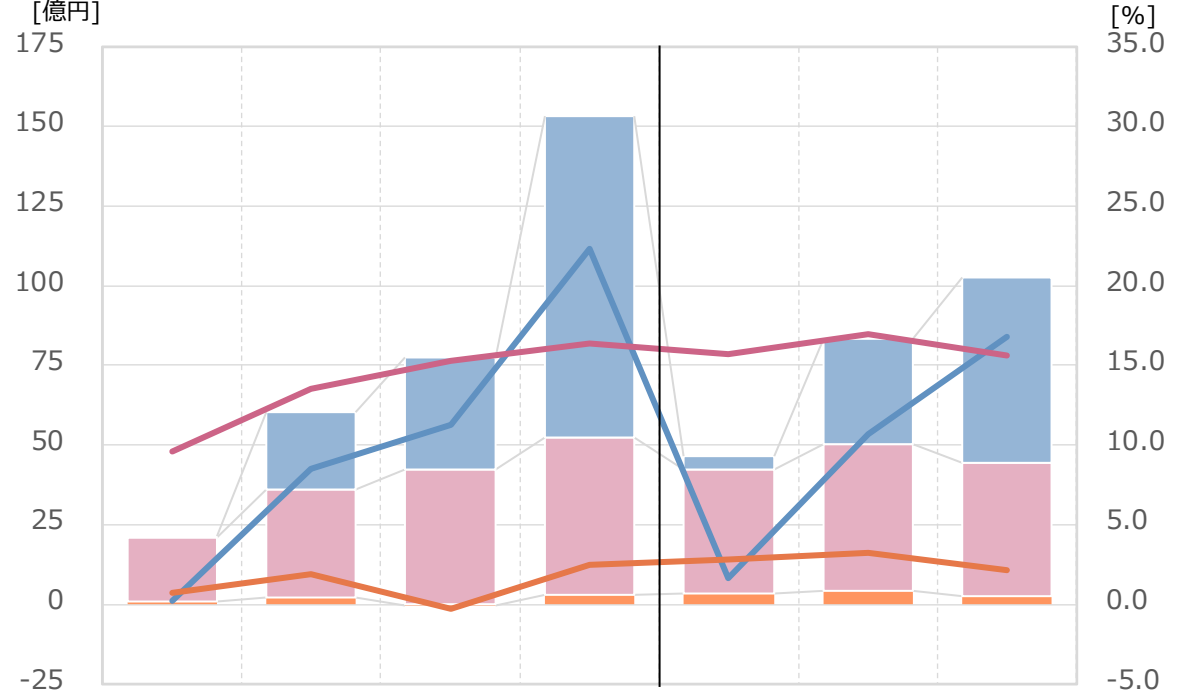
補足資料 I 各種データ

セグメント別業績推移

■ セグメント利益（営業利益） 同期比較



■ セグメント利益（営業利益） 四半期比較

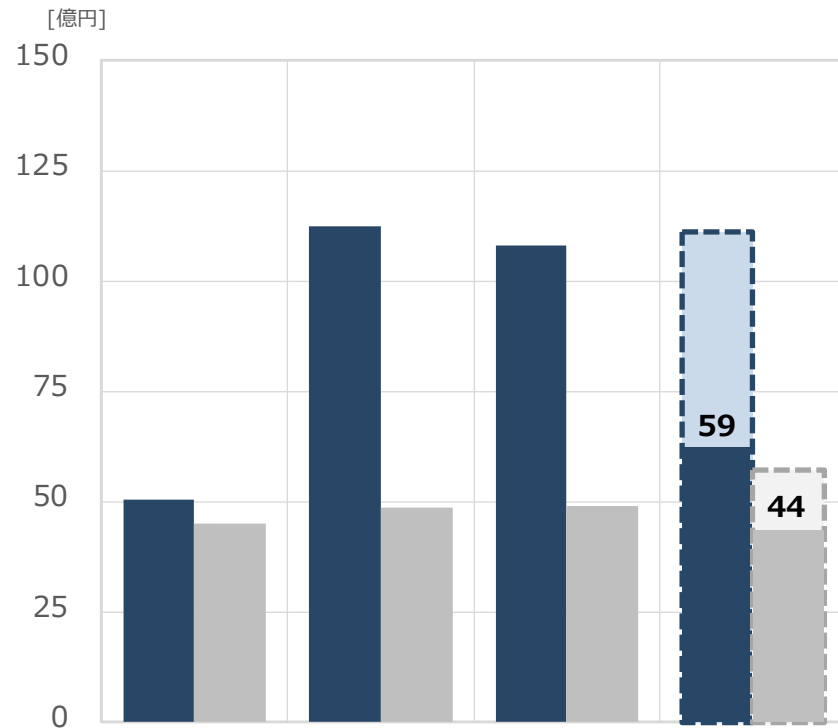


年 度	2020 3 Q累計	2021 3 Q累計	2022 3 Q累計	2023 3 Q累計
BA事業	62	54	59	95
BA事業 利益率 (%)	7.9	6.8	7.2	10.5
AA事業	79	99	96	126
AA事業 利益率 (%)	12.3	14.4	13.1	16.1
LA事業	9	6	2	10
LA事業 利益率 (%)	3.1	2.0	0.8	2.7
連 結	151	160	159	232
連結 利益率 (%)	8.7	8.9	8.3	11.3

年 度	1Q	2022 2Q	3Q	4Q	1Q	2023 2Q	3Q
BA事業	0	24	35	100	4	33	57
BA事業 利益率 (%)	0.2	8.5	11.3	22.3	1.7	10.7	16.8
AA事業	20	33	42	49	38	45	41
AA事業 利益率 (%)	9.6	13.6	15.2	16.4	15.7	17.0	15.6
LA事業	0	2	△0	3	3	4	2
LA事業 利益率 (%)	0.7	1.9	△0.3	2.5	2.8	3.3	2.1
連 結	21	60	77	153	46	83	102
連結 利益率 (%)	3.9	9.3	11.1	17.5	7.6	11.8	13.9

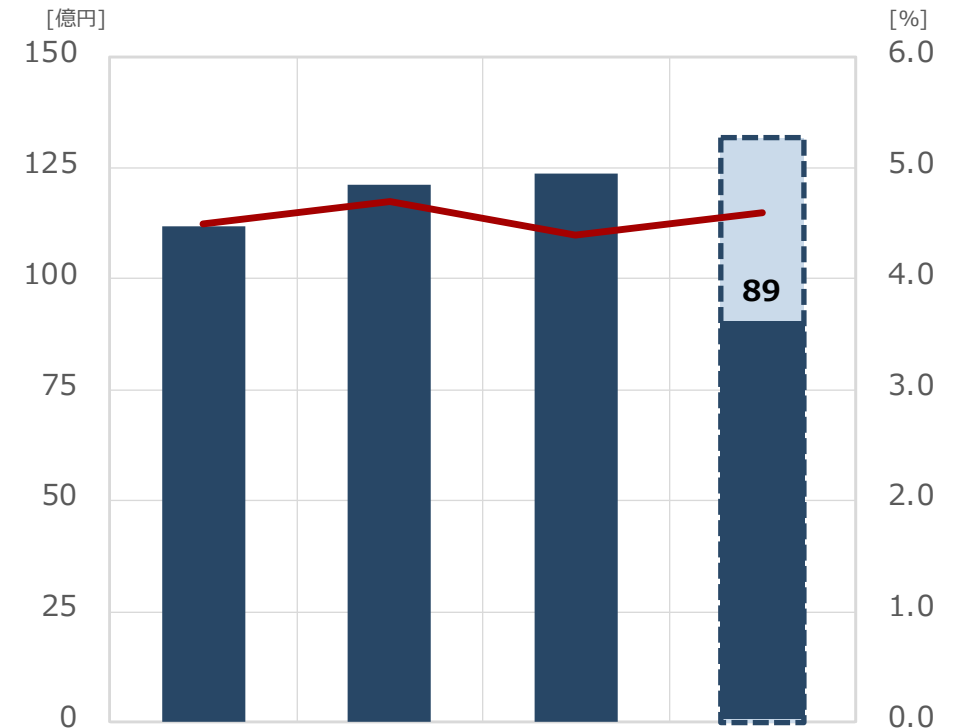
設備投資・減価償却費、研究開発費

■ 設備投資・減価償却費



■ 研究開発費

■ 通期実績・3Q実績
■ 通期計画



補足資料Ⅱ

— 中期経営計画・サステナビリティ経営—



長期目標・中期経営計画

オートメーション技術を共通基盤とした3つの成長事業領域での成長を核に、BA（ビルディングオートメーション）、AA（アドバンスオートメーション）、LA（ライフオートメーション）各事業で、グローバルでの成長を実現

<3つの成長事業領域>

- 新オートメーション事業
- 環境・エネルギー事業
- ライフサイクル型事業

<注力ポイント>

- 商品力強化
- 技術開発・設備投資強化
- 人的資本への投資強化

3事業での
成長を実現

成長

変革

2021～2024年度
中期経営計画期間

安全

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度※1	2024年度※2
売上高	2,594億円	2,468億円	2,565億円	2,784億円	2,840億円	3,000億円
[海外]	[441億円]	[448億円]	[521億円]	[626億円]	[674億円]	[660億円]
営業利益	272億円	257億円	282億円	312億円	337億円	360億円
営業利益率	10.5%	10.4%	11.0%	11.2%	11.9%	12%
ROE	10.9%	10.4%	10.4%	11.2%	13.1%	12%程度

長期目標



2030年

SDGs目標



持続可能な社会へ
「直列」に繋がる貢献
企業価値の持続的な向上

2030年度※2

4,000億円規模
[1,000億円規模]
600億円規模
15%程度
13.5%程度

3つの成長事業領域での取組みと各事業セグメントへの展開

3つの成長事業領域

azbilグループが強みを持つ3つの成長領域の事業で特徴あるソリューションを提供

新オート
メーション
事業

環境・
エネルギー
事業

長期にわたって最適な状態を維持し、
持続可能な社会に貢献

ライフ
サイクル型
事業

新オートメーション事業

新しい需要に応えるソリューションの提供で売上拡大

BA：感染症対策や新しい働き方に適応した新たなビル環境ニーズ（ウェルネス）

AA：より高い生産性と安全で安定した設備運用

LA：各種メーターのIoT対応（スマートメーター）とビッグデータの集積

環境・エネルギー事業

既存商品に加え、新しい価値を提供し売上拡大

BA：カーボンニュートラルとウェルネスを両立する事業機会の拡大

AA：生産設備の省エネルギー・温暖化ガス排出抑制の需要増加

LA：実測されたビッグデータを活用した企業の脱炭素化支援等の要望現出

ライフサイクル型事業

顧客資産（工場・オフィスビル・ライフライン）の品質・性能・生産性を長期にわたりサポートする持続的ビジネス。高付加価値化とDXにより収益性を拡大

中期経営計画の注力ポイント、さらなる成長のための「変革」

環境の構造的な変化に起因するお客様の事業モデル・需要の変化を捉え、3つの成長事業領域の拡大・成長を実現するための「変革」への取り組み

商品力強化 (製品・サービス)

【商品力強化領域】

- 自律化、Wellness
- 省エネ+再生可能エネルギー分野（ESP）
- クラウドサービス

【商品ポートフォリオ拡大】

- AIとビッグデータ、クラウド技術等の組合せ
- 再生可能エネルギー等

新商品を順次市場へ投入。協業、出資等も積極的に展開

→ 新商品、他社との事業提携、出資による事業開発の取り組み(P.30)



▲ 各種クラウドシステム、異常予兆検知システム等

技術開発・設備投資強化

【技術開発力強化分野】

- MEMS・センシングデバイス技術
- アクチュエータ関連
- AI、クラウド

【2023年度 投資計画】

- 研究開発費 132億円
- 設備投資 111億円

研究開発費は前年度同様の高い水準での投資を継続。設備投資は、藤沢テクノセンター（FTC）整備に続いて生産DX拡大や重点製品量産設備等に投資



▲ 藤沢テクノセンター新実験棟

サステナビリティ経営の推進 人的資本への投資強化

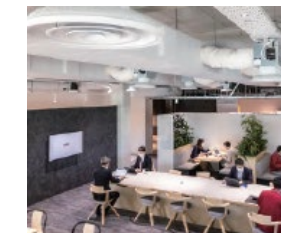
【事業戦略と整合する人材の確保・育成】

- 先端技術エンジニア
- フィールドエンジニア
- グローバル人材

【働く環境の整備】

- 生産性、創造性を発揮するワークスペース等
- 生成AIを活用した生産性向上

リファラル採用や資格奨励制度等による人材の確保・育成、財務施策と連動した従業員インセンティブ・プランや人事制度の改革・充実を実施。また働く環境整備を実施



▲ カフェ型ワークスペース

補足資料Ⅱ 中期経営計画・サステナビリティ経営

商品力強化の取組み（当社ニュースリリースから引用）

<新商品（製品・サービス）の市場投入>

ニュースリリース	発表日
● ビル向けクラウドサービスにビル管理・運営の効率化に貢献するクラウドMT（Manager's Tool）を追加 — 設備管理者不足対策に貢献 —	2023年5月11日
● AIを応用したオンライン異常予兆検知システム BiG EYES 新たにオプションソフトウェア「自律型・品質管理F3モジュール」を販売開始	2023年10月5日
● 水道事業運営の効率化、安定供給に貢献するクラウド型監視システム 「水道標準プラットフォーム対応Harmonas-DEO」の販売開始	2023年11月9日
● 独自に開発した“生成KY（危険予知）”で、サービススタッフ支援	2023年12月19日

<他社との事業提携・出資による事業開発の取組み／継続的な事業ポートフォリオの評価・見直し>

ニュースリリース	発表日
● ジャフコSV7ファンドへの出資について－スタートアップ企業とのパートナーシップ拡大へ－	2023年5月9日
● 関西電力とAIを活用した設備異常検知システムの導入・活用促進に関する業務提携に合意 －「BiG EYES plus」を双方で販売開始－	2023年6月19日
● 外資系データセンター向け事業の拡大を目指し、アズビルとX1Studioが業務提携	2023年10月6日
● 再生可能エネルギー領域でのソリューション拡大－アズビルとフォレストエナジーが資本業務提携	2023年10月25日
● アズビル、北米のグループ会社を米国・Sierra社に譲渡	2024年1月22日

azbilグループのマテリアリティと目標・ターゲット

azbilグループは5分類10項目のマテリアリティを設定し、その実現に向けて独自のSDGs目標を具体的に定め、策定から実行、取締役会への報告・監督・指示に至る一連のマネジメントサイクルの中で管理し、達成の確度を高めています。

マテリアリティ			azbilグループのSDGs目標		
			基本目標	ターゲット	
事業	環境	気候変動	Ⅰ 協創による地球環境とエネルギー課題の解決への貢献	環境・エネルギー	●お客様の現場における CO₂削減効果（2030年度）340万トンCO₂/年 ●温室効果ガス排出削減（SBT ^{※1} 認定済）（2030年度） 事業活動に伴うGHG排出量（スコープ1+2）2017年基準 55%削減 サプライチェーン全体のGHG排出量（スコープ3）2017年基準 20%削減 ●全ての新製品を azbilグループ独自のサステナブルな設計^{※2}、100%リサイクル可能な設計^{※3} とする
		資源循環			
	イノベーション		Ⅱ 新たなオートメーションによる持続可能な生産現場・職場環境、安心・快適な社会の実現	新オートメーション	「計測の高度化」、「データ化」、「自律化」などにより、社会が求める時々の課題を解決、付加価値を創出 ●2030年に延べ 8,000事業所 で事業環境変化に強い状態を実現 ^{※4} ●2030年に延べ 600万人 にストレスフリー、多様な働き方につながる環境を提供 ^{※5}
企業活動全体	社会	サプライチェーン	Ⅲ サプライチェーンにおける社会的責任の遂行と地域・社会への貢献	サプライチェーン社会的責任	●お取引先様と共に、SDGsを共通目的として連携し、 サプライチェーンにおけるCSRの価値共有 を実現。 独自の評価指標で方針・体制・取組み・有効性を評価^{※6} ●地域に根差した社会貢献活動を全ての事業所 ^{※7} において実施し、 社員一人ひとりが積極的に参加^{※8}
		地域社会への貢献			
	人材	人権・安全・健康	Ⅳ 健幸経営と永続的な学習による社会課題解決の基盤強化	健幸経営学習する企業体	●健幸経営（働きがい、健康、ダイバーシティ＆インクルージョン）の実現 2024年度 女性活躍ポイント ：2017年比 2倍^{※9} ・2030年度azbilグループで 働くことに満足している社員：65%以上^{※10} ●学習する企業体の発展・強化 2024年度 研鑽機会ポイント ：2012年比 2倍^{※11} ・2030年度 仕事を通じて成長を実感する社員：65%以上^{※10}
		学習と人材育成			
基本的責務	ガバナンス	商品安全・品質	企業が社会に存立する上で果たさなければならない基本的責務		
		コーポレート・ガバナンス			
		コンプライアンス			
			* 商品安全・品質、コンプライアンスについては、「azbilグループCSR推進会議」において、部門毎に業務に直結した指標及び目標をCSR活動計画として設定 * コーポレート・ガバナンスについては、2022年、指名委員会等設置会社へ移行し、社外取締役を過半数とする取締役会及び3つの法定委員会の体制のもと、適切な監督と実効性を確保 ご参考：役員報酬ポリシー改定（2023年7月） 株式報酬の構成比率を拡大		

※1 Science Based Target：科学的根拠に基づいて設定した温室効果ガスの排出削減目標
 ※2 地球規模の環境課題（脱炭素化、資源循環、生物多様性保全）解決に貢献する製品の創出・提供を目指した設計
 ※3 BAT（Best Available Technology：経済的および技術的に実行可能な最も効果的な技術）の範囲
 ※4 2022年4月時点で530事業所で稼働。2030年には15倍の8,000事業所を目指す
 ※5 2022年4月時点で60万人に提供。2030年には10倍の600万人への提供を目指す

※6 FTSEなどの外部ESG評価をベースにした独自の仕組みと評価制度
 ※7 国内・海外を含む全事業所
 ※8 azbilグループ社員数規模の参加を目指す
 ※9 女性の役員、役職者、管理職など役割に応じたウエイトをつけて独自に集計したポイント
 ※10 国内のazbilグループで毎年行っている社員満足度調査で高いレベルと考えられる65%、すなわち、全社員の2/3の水準を目指す
 ※11 社内外のステークホルダーとともに学ぶ機会（回数および参加人員数）を独自に集計したポイント

注記事項

- 1) 金額は表示単位未満切捨てで記載しています。
- 2) セグメント名称及び、各セグメントを構成するサブセグメントの名称・内容は次のとおりです。

BA：ビルディングオートメーション

AA：アドバンスオートメーション

- ・ CP事業（コントロールプロダクト事業）：
コントローラやセンサ等のファクトリーオートメーション（FA）向けプロダクト事業
- ・ IAP事業（インダストリアルオートメーションプロダクト事業）：
差圧・圧力発信器やコントロールバルブ等のプロセスオートメーション（PA）向けプロダクト事業
- ・ SS事業（ソリューション&サービス事業）：
制御システム、エンジニアリングサービス、メンテナンスサービス、省エネソリューションサービス等を提供する事業

LA：ライフオートメーション

- ・ ライフライン分野：
ガスメーター、水道メーター、警報装置や自動遮断弁といった安全保安機器、レギュレータ等の産業向け製品の販売
- ・ ライフサイエンスエンジニアリング（LSE）分野：
製薬企業・研究所向けに凍結乾燥装置、滅菌装置やクリーン環境装置等を開発、エンジニアリング、販売、サービスまでを一貫して提供
- ・ 生活関連（ライフ）分野：
戸建住宅向けに全館空調システムを提供

- 3) azbilグループの売上高は、例年、第1四半期連結会計期間には低く、第4四半期連結会計期間に最も高くなる傾向がある一方で、固定費は恒常的に発生します。そのため、相対的に第1四半期連結会計期間の利益は低く、第4四半期連結会計期間の利益は高くなる傾向があります。

お問合せ・免責事項

＜ I R に関するお問合せ＞

アズビル株式会社 **コミュニケーション部 IRグループ**

電話 : 03-6810-1031
Webサイト : <https://www.azbil.com/jp/index.html>
IRに関するお問い合わせ先 : <https://www.azbil.com/jp/ir/inquiry/>

＜免責事項＞

業績計画は、現時点で入手可能な情報と合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があることをご承知おきください。